

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of a blue and grey geometric shape with various white icons (gear, envelope, refresh, people, atom, document, keyboard) and lines, suggesting a network or system architecture.

ActiveImageTM 2022

PROTECTOR

～ 製品概要 ～

2023年 9月 7日
株式会社 アクティブアイ

物理・仮想・クラウド環境のシステム・データ保護ソリューションです。

ActiveImage Protector™ は、Windows/LinuxマシンのOS、アプリケーション、データをディスクイメージで丸ごとバックアップし、システム全体を保護できます。緊急時には、バックアップから簡単な操作で迅速にシステム全体の復元が可能です。また、バックアップから仮想マシンとして直接起動することも、スケジュールで待機用の仮想マシンを作成しておき、即座に起動して運用再開を迅速におこなうことも可能で、幅広いニーズに対応しています。

ActiveImage Protector 2022 の特長

システム全体を保護

自由度の高い復元

幅広いバックアップ保存先に対応

バックアップファイルの安全性の確保

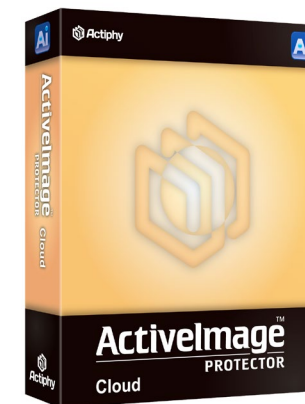
仮想環境への対応

クラウド環境への対応

柔軟なスケジュールバックアップ

システムの可用性

簡単かつ効率的な管理

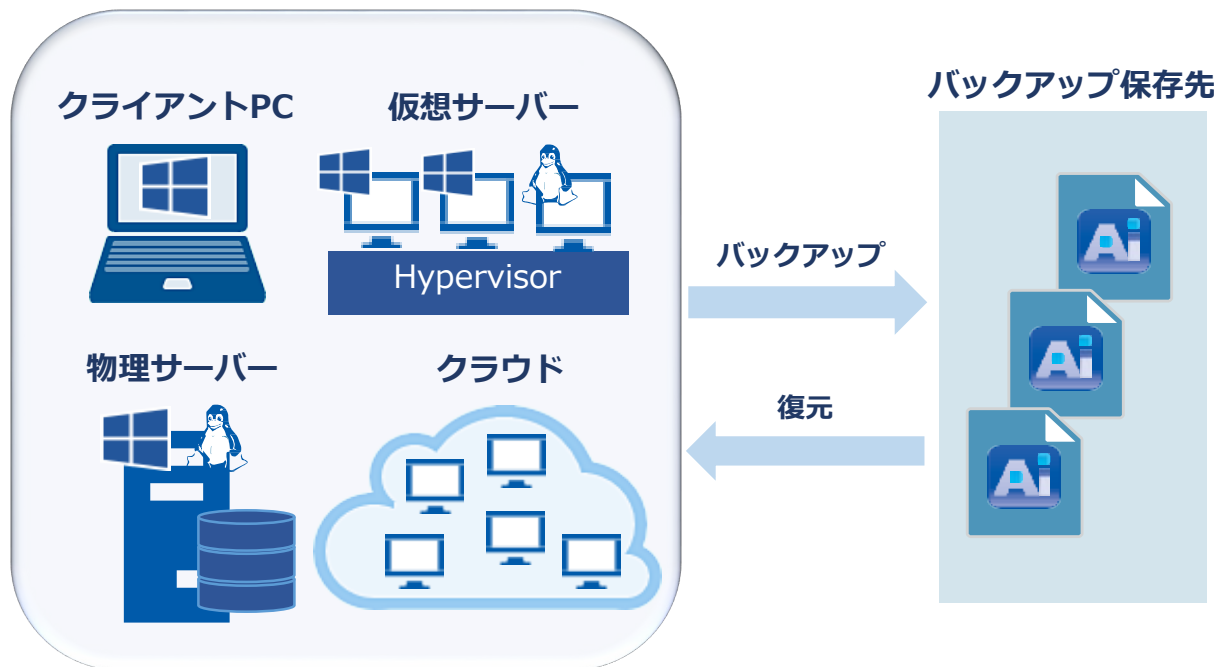


物理・仮想・クラウドのWindows/Linuxマシンのシステム・データを保護

システム全体のバックアップ

物理・仮想・クラウド環境のWindows/LinuxマシンのOS、アプリケーション、データを含むシステム全体をディスクイメージで丸ごとバックアップできます。システム全体のバックアップから、ファイル/フォルダー単位の復元も可能です。

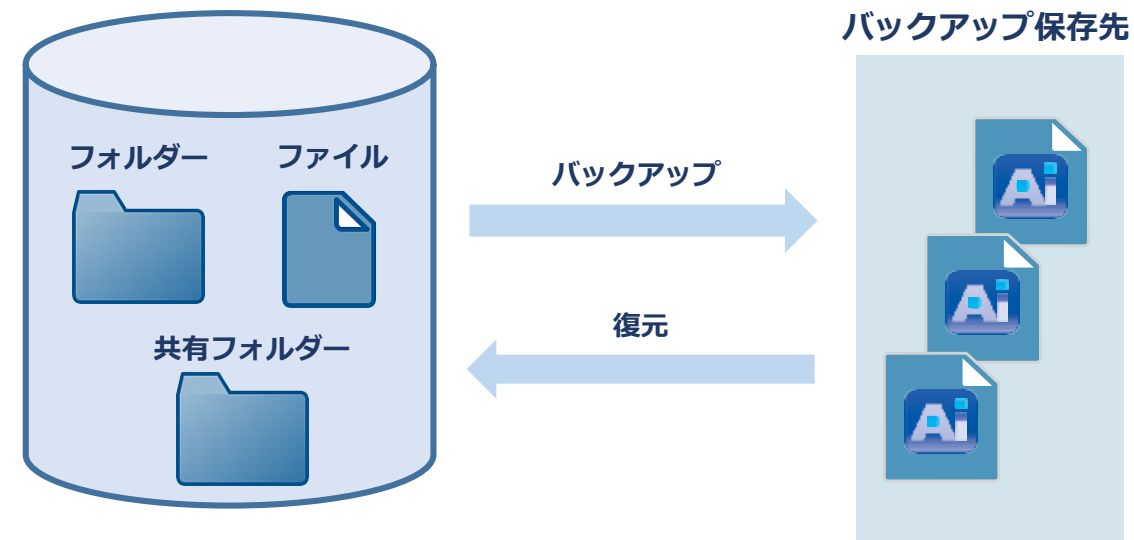
システム全体をバックアップ



ファイル/フォルダー単位のバックアップ

特定のファイル/フォルダーを指定したバックアップもできます。バックアップは、ブロック単位で1つのバックアップファイルに作成されます。また、増分バックアップや共有フォルダーのバックアップにも対応しています。

ネットワーク共有フォルダーのバックアップにも対応



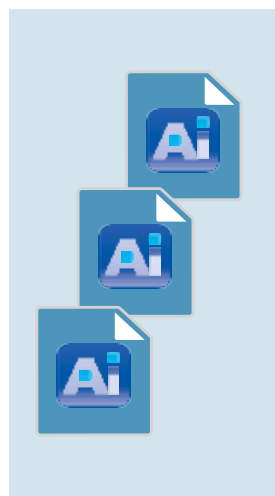
バックアップから自由度の高い復元が可能

状況に応じた柔軟な復元

ActiveImage Protectorの復元は、非常に柔軟です。緊急時には、バックアップから簡単な操作でシステム全体を復元して、迅速に復旧できます。また、特定のボリューム、またはファイル/フォルダーを指定した復元も可能です。

状況に応じた柔軟な復元

バックアップ保存先



システム全体の復元

ボリューム単位の復元

ファイル/フォルダー単位の復元



別のハードウェア構成の物理、仮想マシンへ復元

ハードウェア故障などの障害時には、バックアップから、別のハードウェア構成の物理マシン、またはVMware vSphere、Microsoft Hyper-Vの仮想マシンへの復元も可能です。

別のハードウェア構成の物理/仮想マシンへ復元

バックアップ保存先



復元時に、復元先マシンの起動に必要なドライバーをインストールして復元

予め仮想マシンの起動に必要なドライバーを組み込んだバックアップから復元

物理サーバー



仮想サーバー



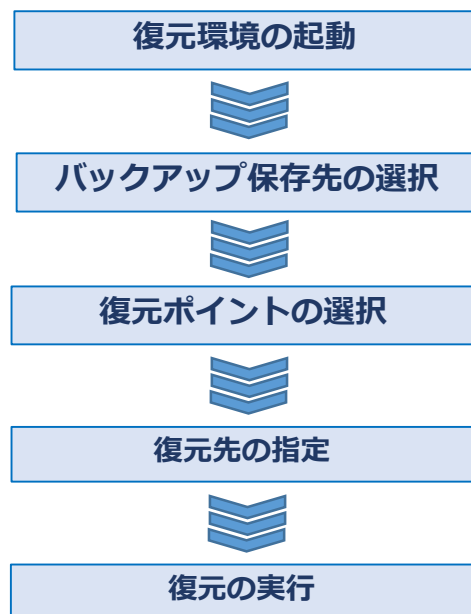
vSphere/Hyper-V

復元時の利便性の向上と復元時間を短縮

ワンクリックでシステムを復元 **NEW**

QuickRecoveryは、起動時に自動的に復元環境を作成するため、起動環境のメディアを作成していなくても復元が可能です。また、復元環境の起動後にリカバリーポイントを指定するだけで、簡単にすぐに復元ができます。ソフトウェア的な問題で復元したい場合は、復元対象のマシンだけで完結しますので、復元作業の時間短縮になります。

通常のシステム復元



QuickRecoveryのシステム復元



システム復元のリモート操作

RescueBootを起動してリモートコンソールから、起動環境の操作ができます。ソフトウェア的な問題であれば、システムの復元対象マシンの前までいかなくても、システムの復元が可能です。

リモートコンソールからの復元操作

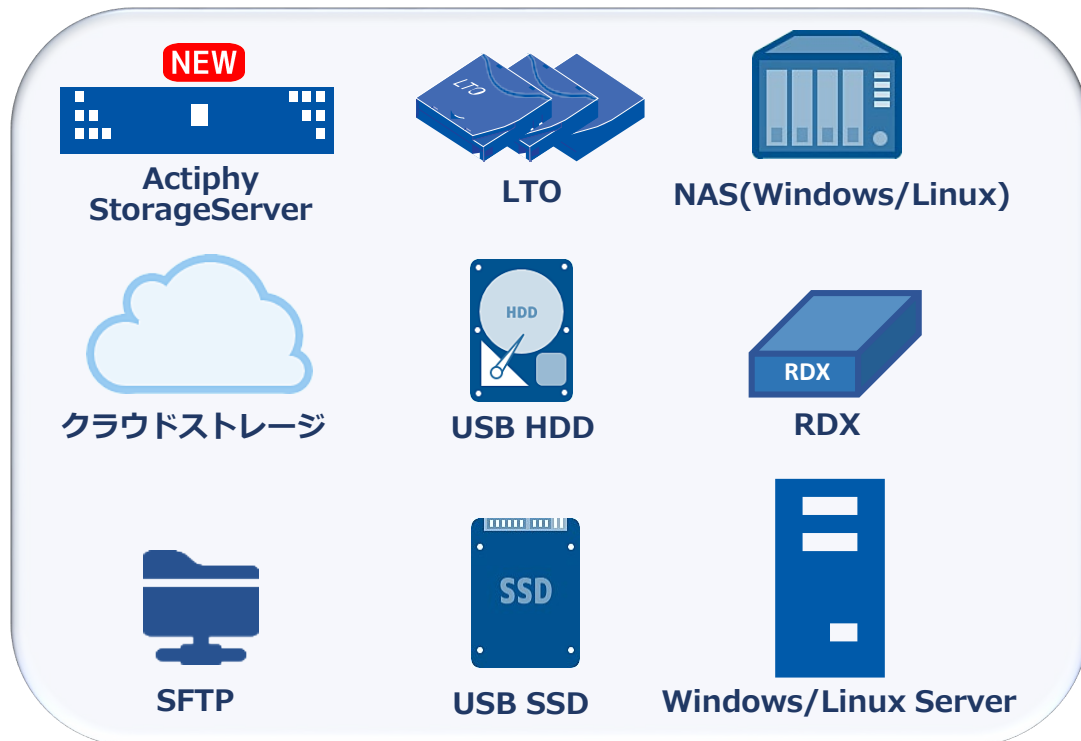


システム構成や目的に合わせてバックアップ保存先を自由に選択が可能

幅広いバックアップ保存先を利用可能

ActiveImage Protectorのバックアップ保存先は、USB HDDからクラウドのオブジェクトストレージに至るまで、幅広い保存先からシステム構成や目的に合わせて自由に選択して利用できます。

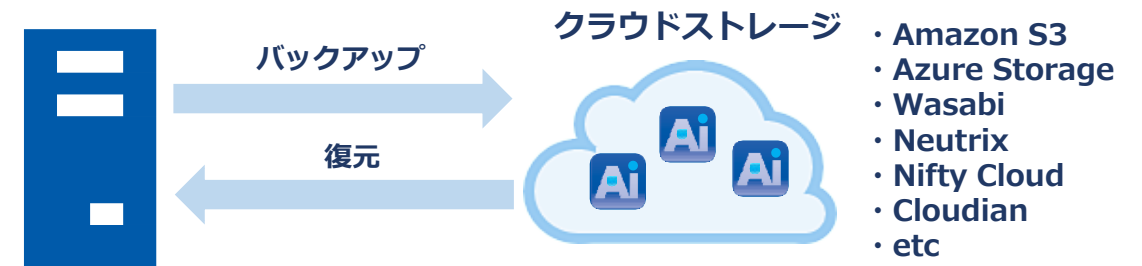
幅広いバックアップ保存先



ダイレクトにクラウドストレージにバックアップ

バックアップ保存先として、クラウドストレージに直接バックアップできます。また、日々のバックアップを、スケジュールで二次保存先としてクラウドストレージにレプリケーション(複製)することもできます。災害によるサイト障害やランサムウェア対策として、BCP(事業継続)に向けた対応がとれます。

クラウドストレージにダイレクトにバックアップ



二次保存先としてクラウドストレージの利用

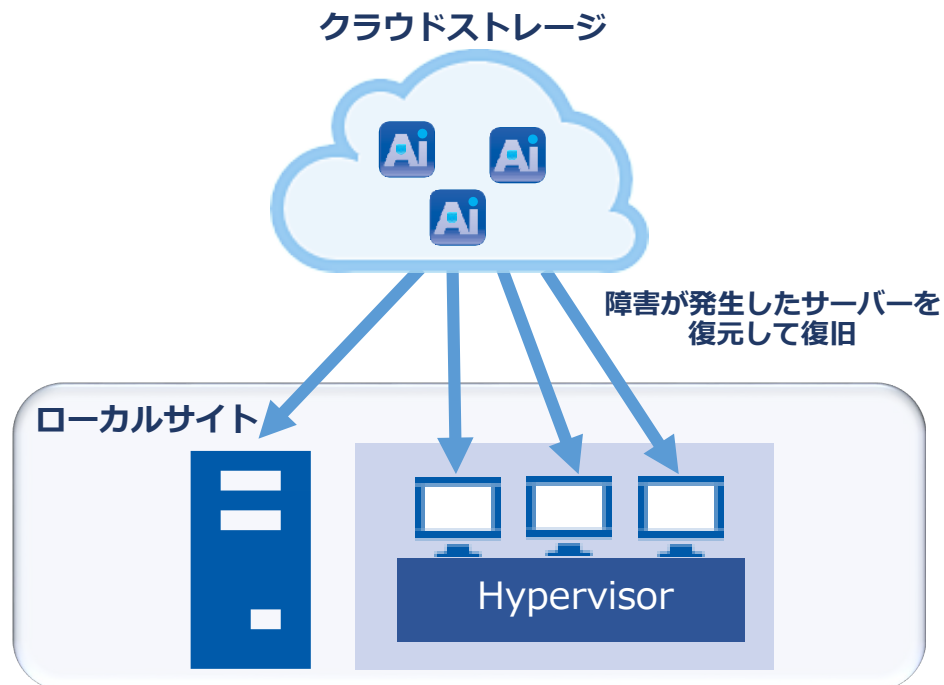


クラウドストレージ活用によるBCP対策

ローカルサイトへ復旧

バックアップ保存先として、クラウドストレージを活用することにより、オンプレミスのマシンのバックアップからダイレクトに復元して、サーバーを元の状態に復旧できます。ローカルサイトに、バックアップをダウンロードするストレージを用意する必要はありません。

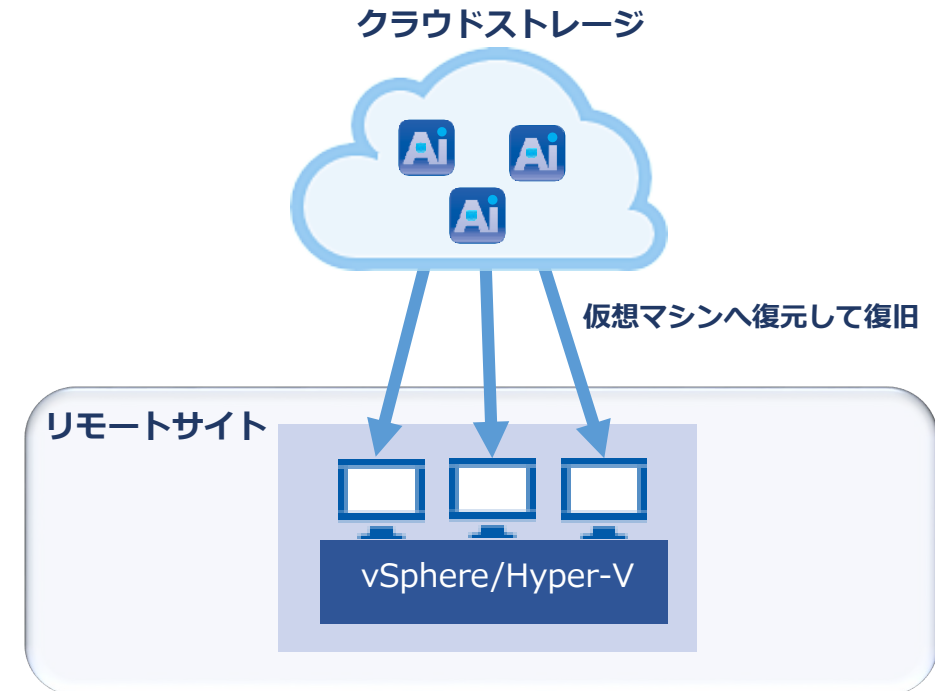
バックアップから障害が発生したサーバーに復元



リモートサイトへ復旧

緊急時には、一時的に復元用の仮想サーバーをオンプレミスのリモートサイトに用意することにより、バックアップからダイレクトにリモートサイトの仮想マシンに復元して復旧が可能です。低コストで実現可能なBCP策定として活用できます。

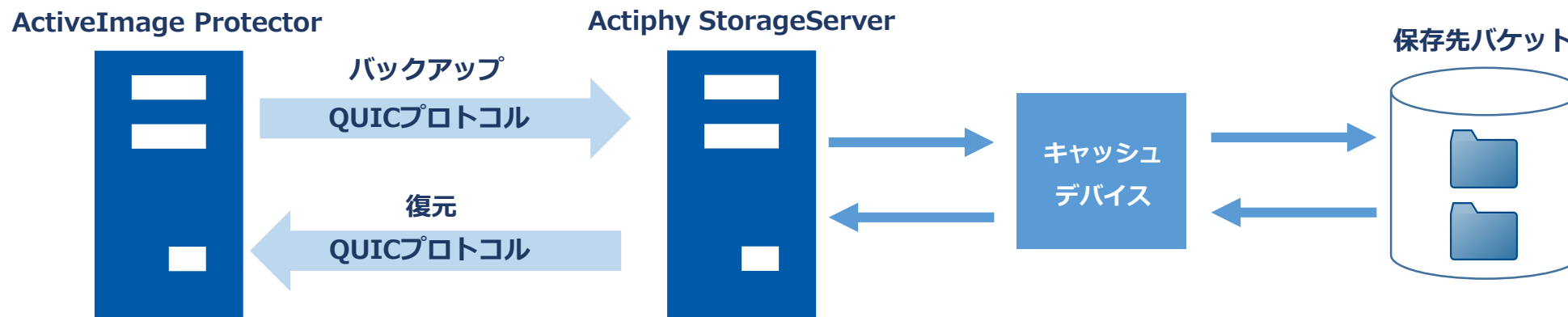
バックアップからリモートサイトの仮想マシンに復元



ActiveImage Protector専用のセキュアなバックアップストレージ **NEW**

Actiphy StorageServerオプションにより、ActiveImage Protector専用のセキュアなバックアップストレージを構築できます。独立した保存先として、ランサムウェアなどのウイルスからバックアップファイルの保護、新しい通信プロトコルQUICを使用した、バックアップデータの安全で効率的な転送、また、保存先より高速なSSDなどをキャッシュデバイスとして追加することで、安定した処理速度でバックアップ実行が可能です。Actiphy StorageServer は、Windows、Linux、Docker版を用意しており、様々な環境での運用が可能です。

ActiveImage Protector専用のセキュアなバックアップストレージを構築



※QUICプロトコル：TCPの長所である正確さと、UDPの長所である速さを兼ね備えた通信プロトコルです。

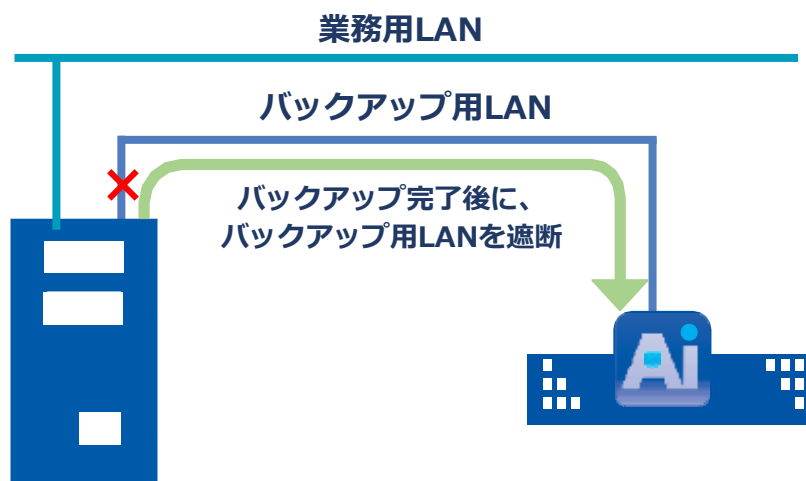
ランサムウェアなどのウイルス攻撃からバックアップファイルの感染リスクを低減

バックアップ保存先の隔離

バックアップ完了後に、保存先のディスクのオフライン化やネットワークを遮断し、ランサムウェアなどのウイルス攻撃から保存先やバックアップファイルを保護する「保存先隔離オプション」が用意されています。保存先隔離オプションは、以下の4つの方法で保存先を隔離します。隔離された保存先は、次のバックアップ開始時に自動的に開放されます。

- 保存先ディスクからドライブ文字の割り当てを解除
- 保存先ディスクをオフライン化
- リムーバブル USB HDDを取り外し
- バックアップ用LANのネットワークを遮断

バックアップ用LANの隔離



バックアップファイルの分散保管

作成したバックアップファイルを他の保存先に、スケジュールで二次保存先にレプリケーション（複製）できます。レプリケーション先として、ローカルディスク、共有フォルダー、FTP、SFTP、WebDAV、Amazon S3、Azure Storage、Wasabi、OneDrive、Google Drive、Dropboxといった幅広い保存先を利用可能です。バックアップファイルを分散化することで、バックアップファイルのセキュリティリスクを低減できます。

バックアップファイルの分散保管

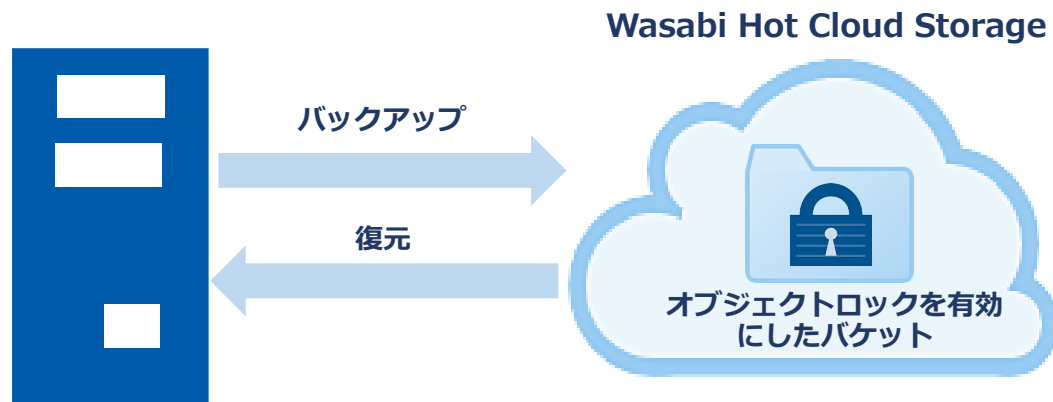


ランサムウェアなどのウイルス攻撃からバックアップファイルの感染リスクを低減

オブジェクトロックを有効にした保存先を利用可能

Wasabi Hot Cloud Storageの、オブジェクトロックを有効にしたバケットを保存先として利用できます。保存先として、ランサムウェアなどのサイバー攻撃に関連するリスクを低減できます。また、一般的なNASと同様に、直接バックアップや保存されたバックアップから直接復元することが可能です。

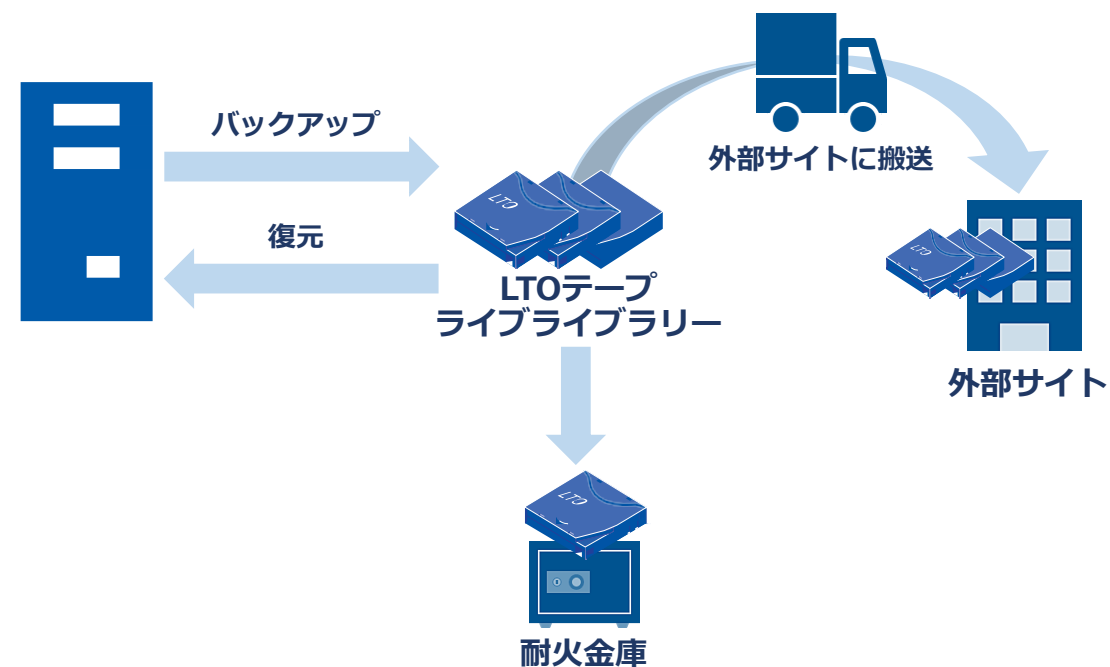
Wasabi Hot Cloud Storageにダイレクトにバックアップ



オフライン保管可能なLTOにバックアップ

オフライン保管可能なLTOテープに、直接バックアップを作成できます。テープに保管することで、ランサムウェアなどの攻撃からバックアップデータの防御にもなり、セキュリティ対策がとれます。緊急時には、LTOテープに保存したバックアップから、直接、システムの復元が可能です。

LTOテープにダイレクトにバックアップ



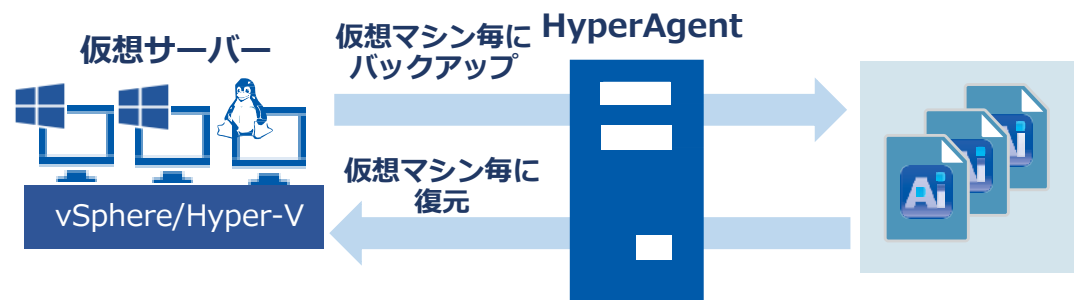
エージェントレスでVMware vSphere、Microsoft Hyper-Vの仮想マシンを簡単に保護

仮想マシンのエージェントレス バックアップ

ActiveImage Protector Virtual に搭載されている、「HyperAgent」により、VMware vSphere、Microsoft Hyper-Vの仮想マシンにエージェントをインストールすることなく、仮想マシンごとにバックアップできます。また、特定のファイル/フォルダー単位の復元にも対応しています。

*VMware vSphere、Microsoft Hyper-V以外の仮想マシンは、エージェントベースでバックアップをおこないます。

仮想マシンのエージェントレス バックアップ



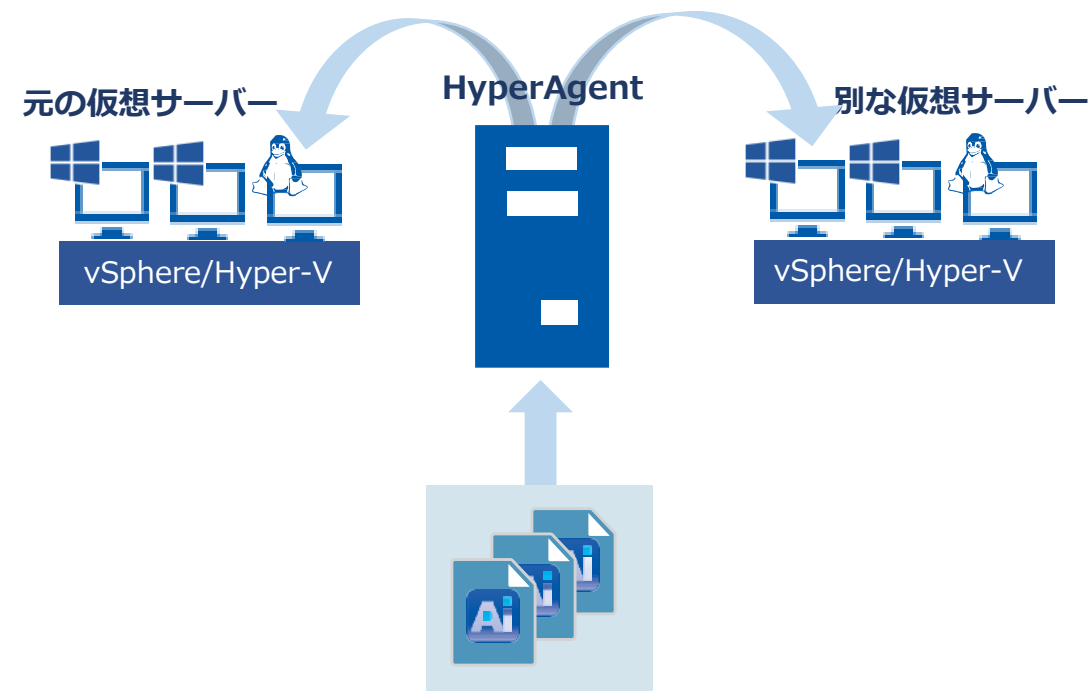
エージェントレス方式のメリット

- エージェントのインストールが不要なため導入工数を削減
- 仮想マシン上でエージェントが動作しないため仮想マシンの負荷軽減
- ゲストOSに柔軟に対応可能（Windows Server 2003から対応）

仮想マシン毎に柔軟に復元

緊急時には、復元先の仮想マシンや仮想ディスクを再構成することなく、バックアップから「HyperAgent」により、エージェントレスで仮想マシンを復元できます。また、別な仮想ホスト上への復元など柔軟な復元が可能ですので、管理者の運用工数を大幅に削減できます。

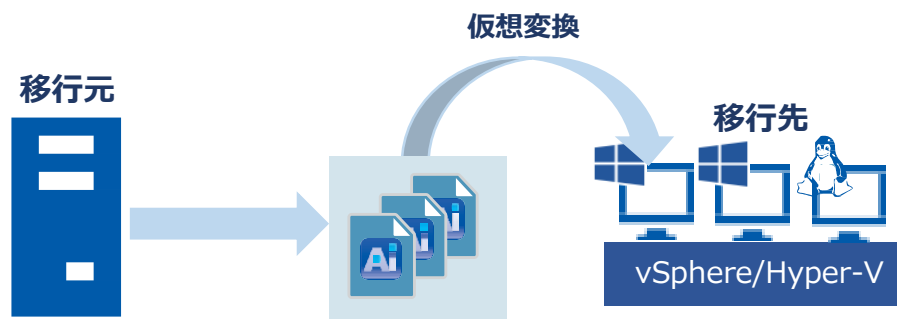
仮想マシンの再構成不要でバックアップからダイレクトに復元



仮想化機能により、簡単にVMware vSphere、Microsoft Hyper-V環境への移行が可能

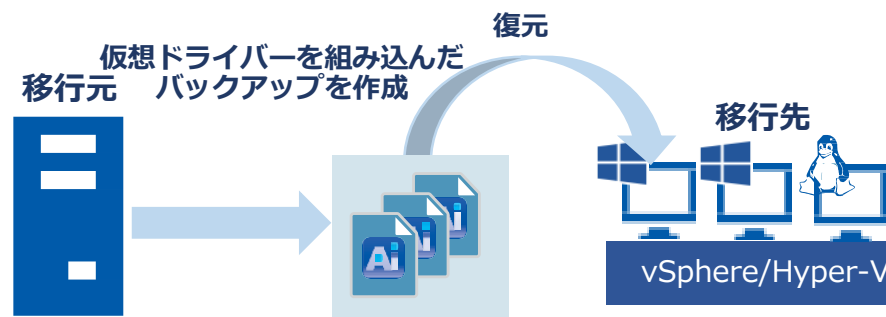
移行元のバックアップから仮想環境へ移行

移行先の仮想ホスト上に、仮想マシンや仮想ディスクを再構成することなく、バックアップから仮想変換した仮想マシンを作成できます。



移行元のバックアップから仮想マシンに復元して移行

移行元のバックアップから、移行先の仮想ホスト上の仮想マシンに復元する方法で移行できます。



移行元のディスクから仮想環境へ移行

移行元のディスクを指定して、ダイレクトに移行先の仮想ホスト上に仮想マシンを作成できます。



シームレス マイグレーション

標準機能のvStandbyから、移行先の仮想ホスト上に「仮想スタンバイマシン」を作成し、移行直前のディスクの変更箇所を反映した仮想マシンを作成できます。

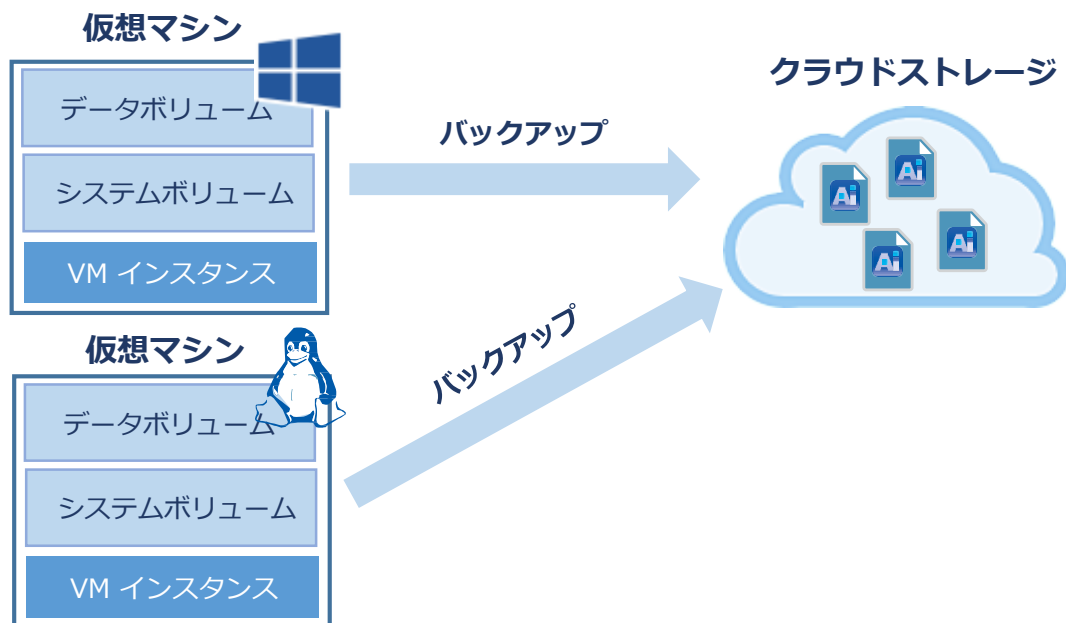


クラウドのバックアップ/復元に対応

クラウド仮想マシンのシステム全体をバックアップ

一般的なスナップショット技術を利用したバックアップとは異なり、Amazon Web Services (AWS)、Microsoft AzureのWindows/Linuxの仮想マシンをディスクイメージでバックアップをおこないます。バックアップの保存先は、クラウド上のVLAN内のクラウドストレージを利用することにより、バックアップ保存先の導入コストを削減することが可能です。

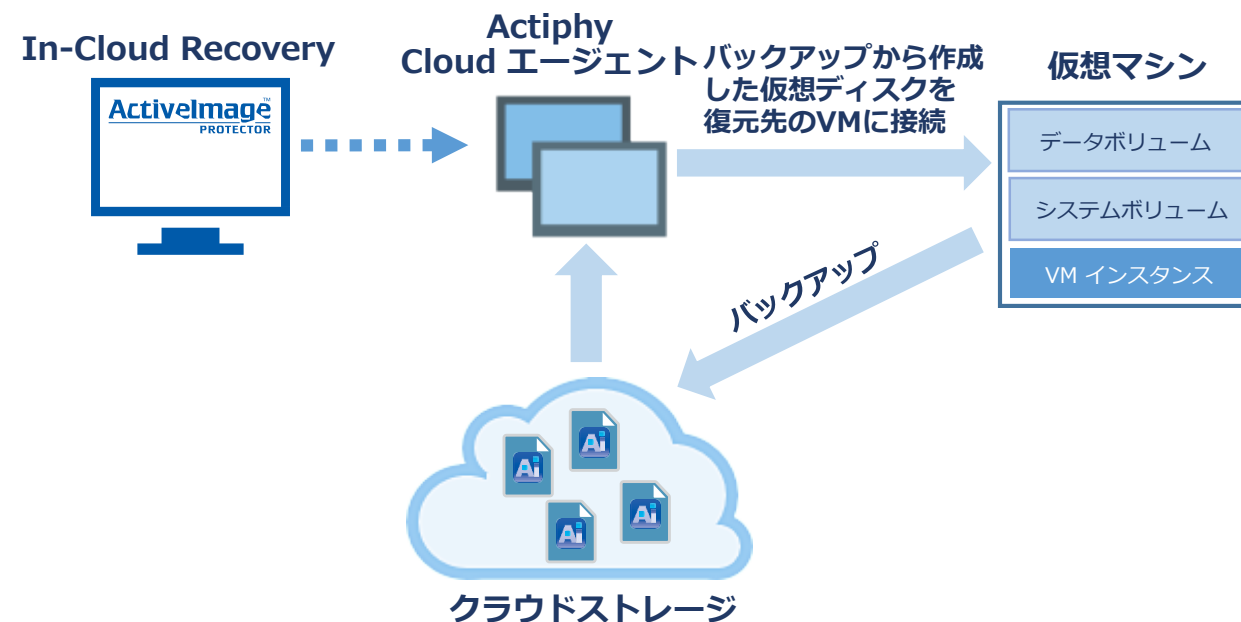
クラウドの仮想マシンをディスクイメージでバックアップ



クラウドの仮想マシンの復元

「In-Cloud Recovery」から、クラウドのActiphy専用領域に配置してある「Actiphy Cloud エージェント」を起動してシステム全体の復元ができます。復元の際に、クラウドの管理コンソールやコマンドラインなどを駆使した複雑な操作は不要です。また、ファイル/フォルダー単位の復元にも対応しています。

バックアップからクラウドの仮想マシンを復元



クラウドをDR（災害復旧）サイトとして活用することも可能

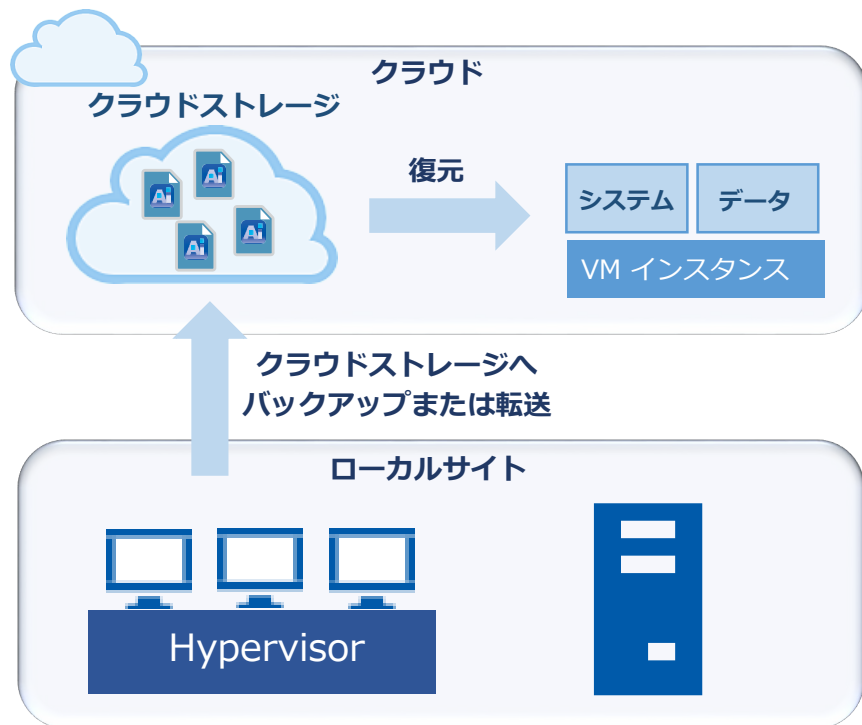
バックアップからクラウド上に復元して復旧

ローカルサイトの物理/仮想マシンの保存先として、クラウド ストレージに直接バックアップ、またはレプリケーションしておき、緊急時には、一時的にバックアップからクラウドの仮想マシンに復元して復旧が可能です。

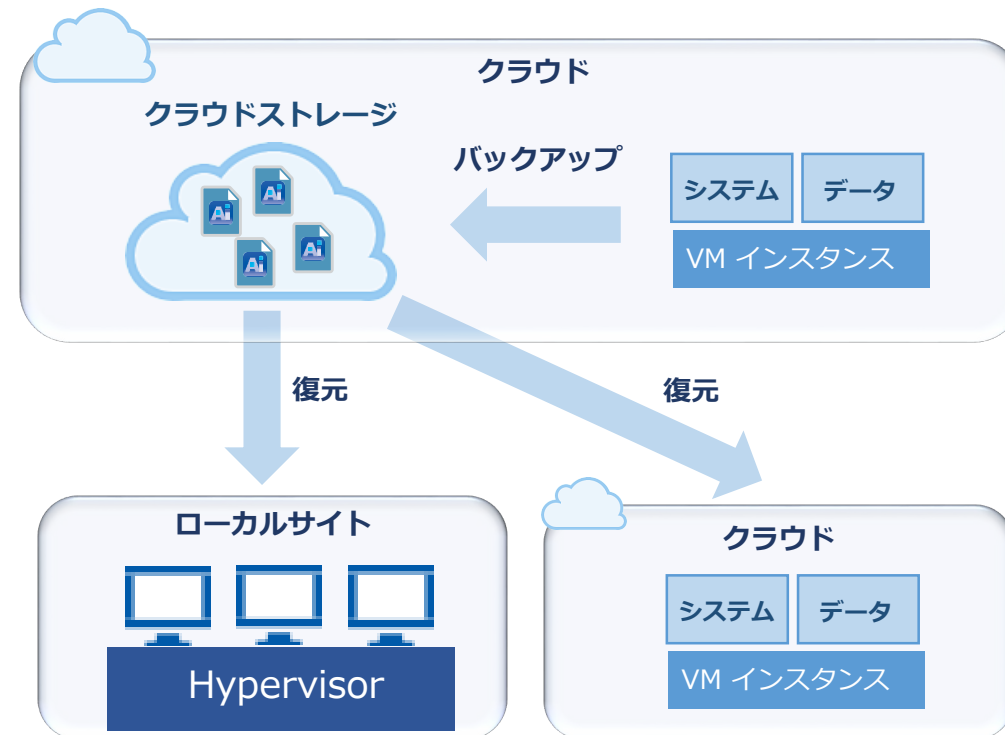
クラウドの仮想マシンをオンプレミス環境に移行

クラウドの仮想マシンのバックアップから、オンプレミスの仮想マシンまたは異なるクラウド上の仮想マシンに復元できます。一時的に運用しているクラウドの仮想マシンの移行にも使用できます。

クラウド上の仮想マシンに復元



クラウドの仮想マシンの移行

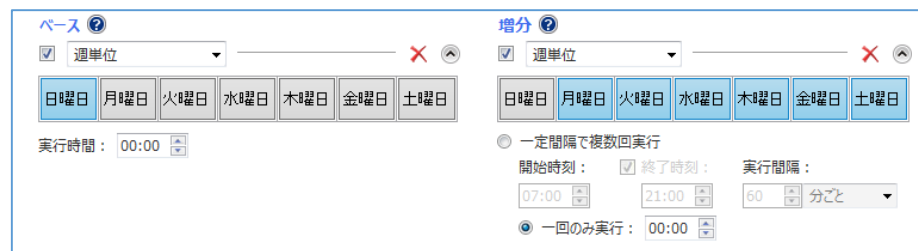


自由度の高い柔軟なバックアップスケジュール設定

ActiveImage Protectorのバックアップのスケジュール設定は、「週単位」「月単位」「指定日時」「指定曜日」と柔軟な設定が可能です。

○週単位の設定例

週末にフルバックアップを作成し、平日に増分バックアップを作成するスケジュール設定ができます。増分バックアップは1日に複数回実行できます。



○指定曜日の設定例

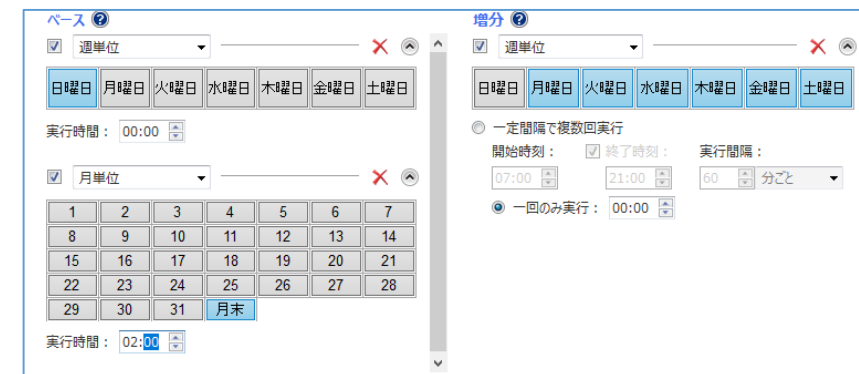
毎月第一日曜日にフルバックアップを作成し、その他の平日は増分バックアップを作成するスケジュール設定ができます。



スケジュールを組み合わせた設定も可能

○マルチバックアップ スケジュール設定例

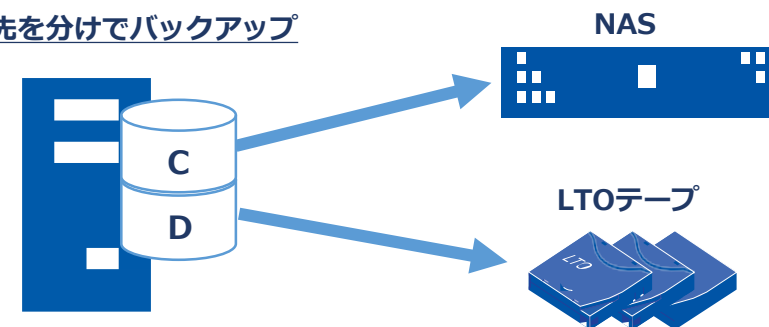
基本は週単位でバックアップを作成して、月末にはフルバックアップを作成するようなスケジュールを組み合わせた設定も可能です。



○マルチバックアップ タスク設定例

複数のバックアップタスクの作成が可能です。例えば、CドライブはNASに、DドライブはLTOテープにと、保存先を分けてバックアップを作成することができます。

保存先を分けてバックアップ

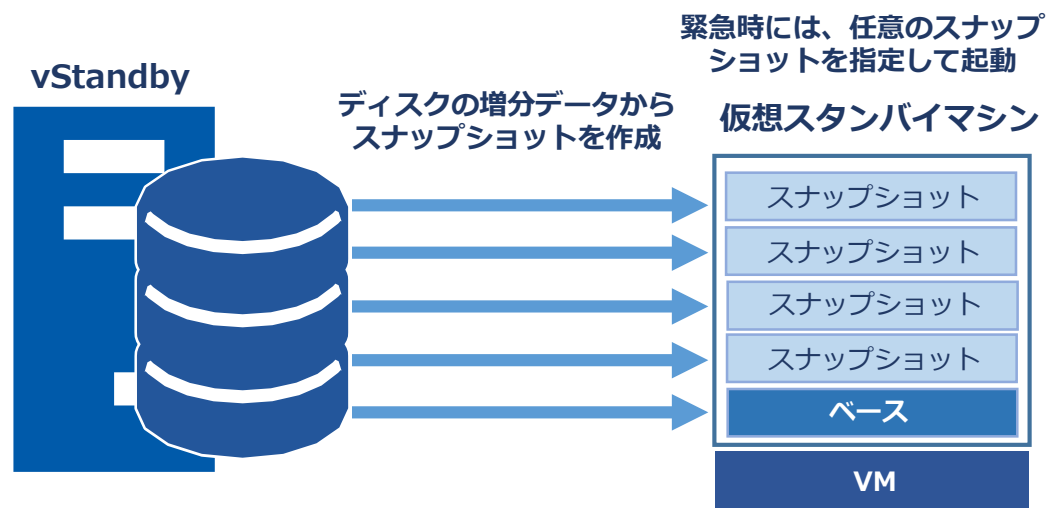


RTO（復旧時間）を考量した機能も標準で搭載

ディスクから仮想スタンバイマシンの作成

緊急時に、大容量のバックアップからの復元には多くの時間がかかる場合があります。標準機能の「vStandby」により、対象マシンのディスクを指定してスケジュールで自動的に、VMware vSphere、Microsoft Hyper-V上に「仮想スタンバイマシン」を作成できます。緊急時には、待機用に作成されたスタンバイ仮想マシンを起動するだけで、業務の継続が可能です。HAシステムに近いシステムをより身近に導入できます。

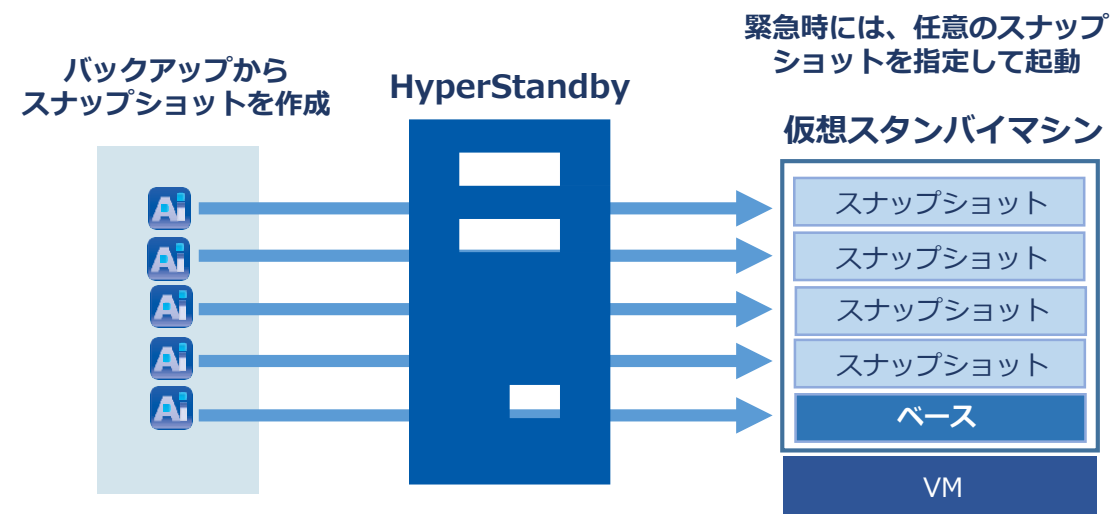
ディスクから仮想スタンバイマシンを作成



バックアップから仮想スタンバイマシンを作成

標準機能の「HyperStandby」によりバックアップから、スケジュールで自動的に仮想ホスト上に「仮想スタンバイマシン」を作成できます。たとえば、バックアップを定期的にリモートサイトに転送し、リモートサイトに「仮想スタンバイマシン」を構成することが可能です。緊急時には、待機用に作成された仮想スタンバイマシンを起動するだけです。災害対策を意識したバックアップ運用をローコストで実現できます。

リモートサイトでシステムを復旧

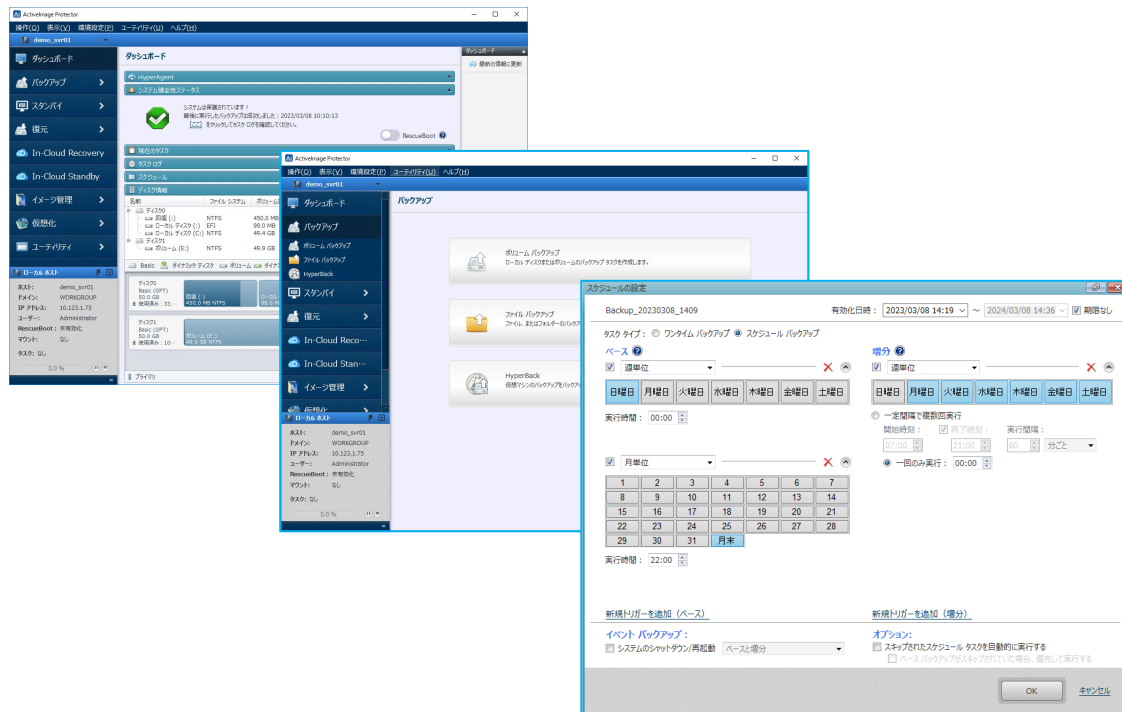


直感的で分かりやすい日本語GUIコンソール

ウィザード形式の簡単なバックアップ/復元操作

システムの健全性、これまでに実行したタスク ログ、スケジュール設定の管理をおこなうコンソールが用意されています。バックアップ設定や復元操作など、ウィザード形式で作業をより簡単かつ効率的におこなうことができます。

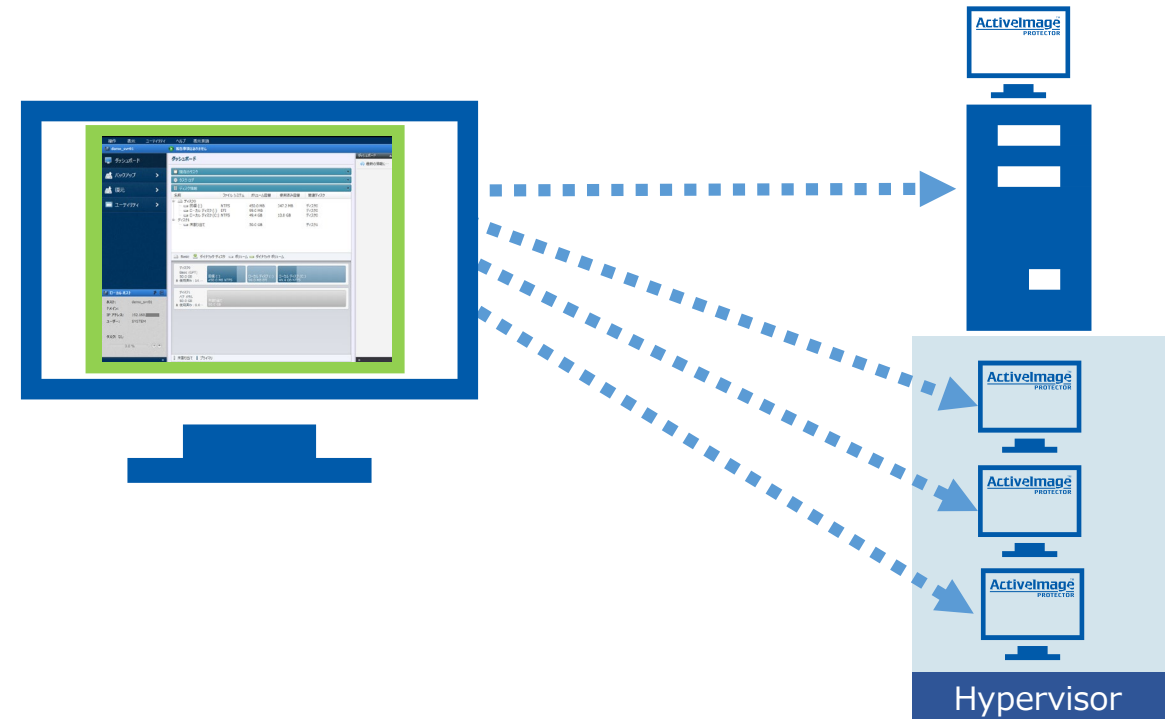
ActiveImage Protectorのコンソール



リモートコンソールを実装

リモートコンソールから、ActiveImage Protector™のエージェントがセットアップされたコンピューターをリモートから管理できます。リモートコンソールは、ネットワーク上の複数のエージェントのバックアップタスクの状況やスケジュールされているバックアップタスクの実行などをおこなえます。

リモートからActiveImage Protectorの操作・管理



基本機能	Server	Desktop	Linux	Vitual	Server vPack	Cloud	Cluster	IT Pro
	Windows サーバー用	Windows PC用	Linux サーバー用	オンプレミスの 仮想環境用	仮想/クラウド の仮想マシン用	パブリック クラウド用	WSFC用	技術者向け 年間使用ライセンス
バックアップ機能								
システムバックアップ	○	○	○	○	○	○	○	○
ファイルバックアップ	○	○	—	○	○	○	○	—
共有フォルダーのバックアップ	○	—	—	○	○	○	○	—
仮想マシンのエージェントレス バックアップ	○※1	—	—	○※1	—	—	—	○
増分バックアップ	○	○	○	○	○	○	○	○
バックアップファイルの重複排除圧縮	○	○	○	○	○	○	○	○
スケジュールバックアップ/世代管理	○	○	○	○	○	○	○	—
SQL Server、Exchange、Oracleのオンラインバックアップ	○	○※2	—	○	○	○	○	○
バックアップ保存先の隔離	○	○	○	○	○	○	○	○
復元機能								
システム復元	○	○	○	○	○	○	○	○
ファイル/フォルダー単位の復元	○	○	○	○	○	○	○	○
ボリュームサイズを指定した復元	○	○	—	○	○	○	○	○
異なる物理マシンへの復元: A.I.R機能	○	○	—	○	○	○	○	○
異なるハイパーバイザー上 (Hyper-V、VMware vSphere) の仮想マシンとして復元: HyperRecovery	○	—	—	○※3	—	—	—	—
クラウド上 (AWS、Azure) の仮想マシンへの復元: In-Cloud Recovery	○	—	—	○	○	○	—	—
QuickRecovery	○	○	—	○※4	○※4	—	○	—

基本機能	Server	Desktop	Linux	Virtual	Server vPack	Cloud	Cluster	IT Pro
	Windows サーバー用	Windows PC用	Linux サーバー用	オンプレミスの 仮想環境用	仮想/クラウド の仮想マシン用	パブリック クラウド用	WSFC用	技術者向け 年間使用ライセンス
バックアップ保存先								
ローカルディスク/共有フォルダー/	○	○	○	○	○	○	○	○
Actiphy StorageServer	○	○	○	○	○	○	○	○
クラウドストレージ（Amazon S3/Azure/Wasabi/S3互換）	○	○	○	○	○	○	○	○
LTOテープライブラリー	○	—	—	○※5	—	—	○	○
USB接続のHDD/SSD/メモリー	○	○	○	○	○	—	○	○
RDX（USB/iSCSI接続）	○	○	○	○※6	○※6	—	○	○
SFTPサーバー	○	○	○	○	○	—	○	○
その他								
ディスクから仮想スタンバイマシンの作成: vStandby	○	○	—	—	○	—	—	—
バックアップから仮想スタンバイマシンの作成: HyperStandby	○	—	—	○※4	○※4	—	—	—
バックアップの起動確認: BootCheck	○	○	—	○※4	○※4	—	—	—
増分バックアップの結合	○	○	○	○	○	○	○	—
バックアップファイルの転送（レプリケーション）	○	○	○	○	○	○	○	—
仮想変換(P2V、V2V)	○	○	—	○	○	—	○	○

※1：Hyper-V、VMware vSphereの仮想マシンのみ対応となります。

※2：Exchangeは非対応となります。

※3：エージェントベースでLVM構成のLinuxマシンから取得したバックアップは非対応となります。

※4：Windowsマシンのみ対応となります。

※5：HyperAgentが導入された物理マシンのみ対応となります。

※6：仮想マシンでRDXカートリッジの自動イジェクト機能を使用する場合は、iSCSI接続のRDX装置を利用してください。



お問い合わせ先
株式会社 アクティブアイ
E-mail: sales@actiphy.com
Tel: 03-5256-0877



www.actiphy.com